

ますし、観光とはいっても、その場に呼び集める観光的な拠点という部分でいうと何があるんだろうなと考えるところがあります。

だから、人が集まってくる、観光客が集まる拠点をどうやってつくっていくかということ、あとは学びとしては子供たちに社会性、お金の考え方であったり、社会保障であったり、学校で教えないことを教えるのがキャリア教育なんだろうと思いますから、そういった部分に関しては、令和2年度に関してはやっぱりやれなかったって考え方なんですか。

○平 進介委員長 新野弘明総合政策課長。

○新野弘明総合政策課長 令和2年度の目玉としましては、先ほど申し上げました、「こどものまち（キッズシティランド）」、こういったコロナの時期でしたので、午前と午後に分けて、小学校が合計100名でございますけども、その中で事業としてはしっかりできたかなと思ってますが、まだまだ不十分だと思ってますので、ここについては、今後さらに発展するように検討してまいりたいと思います。

○平 進介委員長 7番、内谷邦彦委員。

○7番 内谷邦彦委員 第一校舎に関してはやっぱり観光の拠点であったり、長井市としては重要なポイントであると思いますので、様々な事業を行って、そこに人を集めるのが重要な部分だと思いますので、今コロナでなかなか人が集まらない状況ではありますけども、やはり今、いろんなアイデアを募りながら、様々な情報発信していかないと、コロナ禍が終わっても人が来ないというような形になると思いますので、その辺を十分注意されて、ぜひすばらしい運営ができるようお願いいたします。

以上で私の質問を終わります。

## 勝見英一朗委員の総括質疑

○平 進介委員長 次に、順位3番、議席番号2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 政新長井の勝見です。

令和2年度一般会計決算に関し、本市の様々な資源を生かす視点から、数点お尋ねいたします。

資源といいましても、人、産業、自然、文化、芸能など多くの分野がありますが、今回の質疑では、人材、産業、施設、歴史に関わる事業について、課題把握や改善の方向などのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

まず1点目ですが、7款1項4目、002「ものづくり人財」創出事業49万9,552円について、商工振興課長にお尋ねいたします。

この事業の目的は、雇用に資することとされているわけですが、その評価はいかがでしたでしょうか。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 お答え申し上げます。

まず初めに、長井工業高校の進路状況をご報告させていただきます。

令和2年度につきましては、卒業生が87名、そのうち52名、約6割の方が就職となっております。残りの35名、4割になりますが、こちらの方は進学ということになっております。

また、就職の内定率を見ますと、ここ近年100%ということで把握をしております。

就職した52名のうち、西置賜地区の企業に就職なされた方、21名おります。さらに、置賜地域に広げますと32名となっております。さらに、県内に広げますと34名、約7割の方が県内に就職という状況になってございます。

また、近年の就職者数の推移でございますが、令和元年度、県内就職者数は33名、平成30年度、県内就職者は55名、平成29年度については39名、年度によって多少増減はございますが、就職者の約7割から8割の方については県内就職と把

握をしてございます。

このように就職者の方が県内のほうに就職なされるということは、「地域を潤す源流となれ！」という長井工業高校のスローガンがあるんですが、地域の産業を支える人材育成、ものづくりの人材育成ということで、寄与できたものと考えているところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 今、進路先をご紹介いただきました。就職者数も多い中で、長井工業高校が地域に対して貢献されてる、特に県内の企業に対して貢献されているというお話いただいたところなんです、本市としましても、小学校の段階から長井市の産業を理解していただいてというキャリア教育が進んでいると理解するところです。その小学校から積み上げてきたキャリア教育がどういうふうここに生かされてくるかということを見ていきたいと思うんですが、そういう視点でいきますと、今、人数上げていただいたんですけれども、長井市内の出身の生徒がどういう動向なのかということは、そこまでは把握はいかがなのかなと思ったんですが、いかがでしょう。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 お答え申し上げます。

南北中学校の卒業生の割合で見ると、長井工業高校生徒から見ると約6割程度と把握してございますので、6割程度は長井市内にということで考えているところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 その推測は昨年でしたかも、お聞きしたところなんです、ここはこども未来創造室ができましたので、ぜひ小・中・高含めて、信頼関係を築いていただいて、実際、どういうふう育ったかということの評価できるように、これは公表する必要はないわけなんですけれども、内部ではぜひ把握していただきたいと感じるところです。

2番目の質問をいたします。

技能検定合格者は年々減少しておりますが、昨年度に限っては、新型コロナウイルスの影響で受検機会が減ったのが大きな要因とは思いません。

一方、技能検定に対する意識の変化などがあるのではないかと思う部分もあります。

そこで、お尋ねいたしますが、受検者数、合格者数の動向をどのように捉えておられるでしょうか。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 お答えいたします。

合格者数の変動につきましては、やはり生徒数の減少というところが一番大きいかと思いません。生徒数が減りますと、受検者数も減ってくる、それに伴いまして合格者数も減ってくるということで、やはり人口減少というのか大きいのではないかなと考えているところでございます。

令和2年度の受検の状況でございますが、技能検定、こちらについては前期、後期、通常2回あるわけなんです、令和2年度については、前期がコロナ禍のために中止となっております。後期1回のみということで、合格者数は26名という状況でございました。ちなみに、令和元年度の合格者数は53名、平成30年度については94名、平成29年度については58名ということで、年々ちょっと減っている。しかも令和2年度については、コロナ禍の影響で試験が実施されなかったことで、約26名という結果になっているところでございます。

あわせて、例年3月に、長井工業高校を受検会場としましたQC検定、こちらのほう、企業の方も含めて行ってるわけなんです、こちらについても令和2年度、令和元年度、2年続けてコロナ禍の影響で中止ということになってしまいました。

いずれにしましても、受検のために準備を進

めてきた生徒の方々については、成果を発表する場を失ってしまったなどということで、残念に思っているところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 生徒数の減少で、結果的には受検者数も減るだろうということでしたけれども、この技能検定の受検者数とか、技能検定に合格している人がどれくらい長井市にいるのかとか、そういうことにはやはり関心を持つだろうと思うわけです。そういたしますと、そのときに実際受検する人たちの気持ちが、もしかして変わってはいないのか。もし変わっているならば、どんな対策を取ったらいいんだろうとか、そういう施策につながるんだろうと感じるところなんです、この辺は生徒数の減少という捉え方だけでなく、もう少し突き詰めていく必要があるのではないかなと、今、答弁いただいて感じたところです。

なお、QC検定、それから、社会人の受検について、今、触れていただいたわけなんです、3番目の質問で、長井工業高校では高校生だけでなく、社会人にも広げて技能検定を受検してもらっているということで、これは大変有意義なことだと感じたのですが、当市として、そのような社会人にも広げていこうというお考えはありでしょうか。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 社会人の技能検定に關しましては、3級でなくて1級と2級、上級技能検定ということで、長井商工会議所を事業主体といたしまして、平成24年度から平成30年度まで実施してきたところでございます。

ただ、企業のほうのニーズ、あと受検者数のほうが減ってきたということで、こちらの事業は平成30年度で終了ということになりました。

これとあわせまして、技能検定は終了になったわけなんです、別に企業ごとにQC検定を行ってございましたので、長井工業高校と社会人

が連携して、会場を長井市内で持てるようにということで、現在もQC検定は続けているところでございます。

長井工業高校生につきましては、技能検定取得というのは就職時に有利ということで、受検をされてる方が多いかと思えます。

ただ、社会人の方につきましては、この検定を合格しないと仕事ができないということではないので、そういう意味からいうと、現在、社会において必要とされる技術がどのようなものがあるか、あと企業のほうでどういうニーズがあるか、ここら辺のところを確認しながら進めていかなければと考えております。

あと、いわゆるものづくりの製造業の種目、旋盤や機械加工だけではなくて、配管とか商品の包装、そういう種目もございまして、こちらについても、企業側のニーズを酌み取りながら進めていきたいと考えております。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 ぜひ、そのようにお願いしたいところなんです、4番目の質問です。

同じように、これは長井工業高校に関わる場所でもありますが、この事業、技能検定受検を支援するものとされておりますが、支援の対象、技能向上に資するとの取組にも広げていこうとするお考えなどはありでしょうか。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 先ほどの質問とも関連するわけなんです、社会人の受検枠の拡大、技能検定以外の支援ということでございますが、こちらについては、やはり企業側のニーズというのもございます。そこで、長井商工会議所とも連携しまして、その中に工業部会、建設部会、部会がございまして、そちらの方々と要望などを聞きながら、また、社会的な動向等も聞き取りながら進めていかなければならないということで考えているところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 この事業は、主に長井工業高校の技能検定支援と捉えたところなんです。その上で、支援の対象を技能検定よりもっと別な分野にも広げてはいかがなんだろうかという意味で、お尋ねしたところなんです。なお、それをもっと広めた形で企業の要望を取っていきたいということについては、そのような進め方をお願いしたいと思います。なお、もう一つお尋ねいたしますが、この検定以外にも広げてという意味でお聞きするんですけども、長井工業高校の生徒が山形大学国際事業化研究センターが主催する起業家支援プログラム、EDGE-NEXTですが、これを今年度から実行してるということでした。

このプログラム、非常にレベルが高い、興味のあるプログラムなんですけれども、県内の主な工業高校の生徒などが無料で受講してると。これ、新聞にも載ってましたので、大変興味あったんですが、長井工業高校の生徒も1名ですが、これを受講してる。

こうした検定以外の姿勢に対しても、支援するということが有意義ではないかと考えているところなんです。商工振興課長はその辺り、どのようにお考えでしょうか。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 委員ご紹介のように、長井工業高校の生徒が、今1名、起業家支援プログラムのほうに参加しております。

中身については、山形大学の先生と、あとシリコンバレーの先生がプログラミングの研修をするというような内容になってございます。仕組みは本当に簡単で、インターネットを経由してできるということで、ただ、パソコンのほか、USBみたいな通信機器、二、三千円するものあるんですが、そちらのほうだけ個人負担になるということなので、もし、これから長井工業高校生がこういうことをやりたいということであれば、校長先生とも相談しながら進めて

いきたいなというように考えているところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 もう一点、長井工業高校に関して、最後に質問させていただきます。

令和元年度に地域との協働による高等学校教育改革推進事業のプロフェッショナル型アソシエイト校に採択されたことは、長井工業高校の学科への要望と相まって、期待をかけたものですが、3年の採択期限を迎えてどのように評価されておられるのでしょうか。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 こちらにつきましては、平成30年度から、文部科学省の事業であります、地域と協働による高等学校教育改革推進事業ということで、長井工業高等学校が指定校ではないんですが、アソシエイト校ということで選定されたものでございます。

アソシエイト校となりますと、本事業の全国サミットというのがございます。こちらのほうに参加するということと、そちらに参加し、いろんな高校と情報交換、意見交換等を行うことができるという中身になってございます。

令和元年度につきましては、東京都での全国サミット、こちらのほうに、長井工業高校の高橋校長先生はじめ4名の方が出席しております。

令和2年度につきましては、残念ながら、新型コロナウイルスの関係でオンラインでの開催ということで、2名出席しております。

令和3年度についても、現在、オンラインでの全国サミットということで予定をされているところでございます。

このような全国サミット、オンラインサミットに参加することによりまして、いろんな高校と情報交換、意見交換を行ってきております。この中で、長井工業高校の先生が地域でのものづくり、人材育成をすることに非常に興味を持って、機運が高まっているところでございます。

その中で、カリキュラムの検討ということも行ってきたというようにお聞きしております。

令和4年度から、新教育課程ということで始まるわけなんです、この中に先生方の意見も踏まえまして、これまでのそのまま工業高校の専門的な課題研究、これだけにとらわれず、普通高校で取り入れております地域課題の解決、いわゆる総合的な探究学習、こちらのほうも1年生と2年生で組み込んでいこうということで、お話を聞きしているところでございます。

また、長井工業高校では、毎年、課題研究発表会を行っております。こちらについては企業の方、市民の方、地域の方に見ていただきたいということで、TASビルを会場としまして、これまで行ってきました。このような取組の中で長井工業高校の学科名から、具体的にどういふことを学んでいるのか分かりづらいということで、来年から始まります、新教育課程編成に際して、学科の名称も変更されるということでお聞きをしております。

このように、地域と学校、地域の企業一体となって、いろんなことを考えて、よりよい方向に進んでいきたいというところを見いだしたということは、大変よかったなと考えているところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 ただいま成果のお話いただきました。これをきっかけにして、機運が高まって、地域を潤すという姿勢が、なお強くなってるということは喜ばしいことだと思いますので、この機運、いいタイミングだと思いますので、ぜひ、その機運を生かすような場の設定なり、PRなりを市としても取り組んでいただければと感じたところです。

まず、1番目の「ものづくり人財」創出事業については以上とさせていただきます。

次に、10款5項2目、003市営スキー場管理運営事業727万7,380円についてお尋ねいたしま

す。

健康スポーツ課長にお尋ねいたしますが、市営スキー場の現在の利用状況及び課題をどのように捉えているかお聞かせください。

○平 進介委員長 菅 秀一健康スポーツ課長。

○菅 秀一健康スポーツ課長 お答えします。

初めに、道照寺平スキー場の利用状況であります、令和2年度の利用者数が5,385人でありまして、令和元年度は雪がなく、営業ができませんでしたので、平成30年度と比較しますと1,246人の減となりました。

また、令和2年度の利用者数5,385人のうち、学校のスキー授業での利用者数が2,183人で、全体の40.5%を占めている状況です。

また、スキー場の利用者の状況を見ますと、平日はほぼ学校のスキー授業の利用であって、土日等の休日はスポーツ少年団の活動やケッパーズによるスキー教室、そして、一般の親子や家族連れの利用が多く、親しみやすいファミリーゲレンデとして活用されているところです。

次に、課題になりますが、スキー場としての課題の第1点目は、まず初心者にとってアンバーリフトは慣れるまで大変で、乗りやすさ、利便性という点では課題があると思います。

学校のスキー授業では、指導員のほか、リフト係を配置しながら、子供たちの手助けをし、スキー授業を行っているところです。

第2点目は、中級者が利用できるコースがないことでもあります。3号リフトで最上まで上がりますと、ジャイアントスラロームコースを滑ることになりますが、ここは上級者コースになっていますので、このコースに自信のない人はいつまでも初級コースを滑ることになります。スキー技術を習得する上でも、中級者用のコースがあれば、利用者にとってもっと魅力的なゲレンデになるのだらうと思います。

3点目としましては、夜間照明がないことで、スキースポーツ少年団が平日に活動する場合は、

ナイター設備のあるスキー場に行くこととなりますので、移動しなければなりませんし、時間がかかりますので、練習量はおのずと減るのかなというように思います。

また、一般の方が仕事終わりにスキーをしたいと思っても、近隣市町に行っていただくしかない状況になっています。

これらの課題に対する改善として、平成29年12月1日付で、長井市体育協会、長井スキー連盟、道照寺平スキー場整備促進協議会、道照寺平スキー場運営委員会の4者連名で総合的な滑走斜面整備に関する要望書を頂いたところであります。

しかしながら、現在、スキー人口が減っている状況であり、どれぐらいの規模の整備が必要なのか、また、これら事業を一般財源だけでは到底できませんので、補助率の高い補助事業を探していくことが必要になります。これらのことが整備に当たっての課題とされているところです。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 ただいま課題として上げていただきました中の1番目、初心者はなかなかアンバーリフトの利用が難しいというところがあります。親子で休みの日に遊びに来て、これを使うのが難しいというのが実態のようです。小学校の低学年など、体力のない子供にとって、このアンバーリフトは大きな支障となっているようですが、これを現在より使いやすくするために、今は左手でロープを持って支えなければならぬのですが、それを一番右側に持っていけば、右手で乗っていけるということも、今、話に出てくるようなんですが、そのような改善策については、健康スポーツ課長はどのようにお考えでしょうか。

○平 進介委員長 菅 秀一健康スポーツ課長。

○菅 秀一健康スポーツ課長 勝見委員のおっしゃるとおり、現在はグレンデに向かって左側に

設置している1号リフトと右側に設置している2号リフトは、隣り合わせで平行していますので、1号リフトにつきましては右手でつかんで、その反対の2号リフトについては左でつかまなければならないような状況になっています。体力のない低学年にとっては、搭乗するのはちょっと大変かなと思っています。

この2号リフトの移設に関しましては、小さな子供まで楽しめる総合的な滑走斜面整備要望書、長井スキー連盟の案ということで拝見はしていますが、まだ、正式に承っておりませんので、ご相談があれば、長井スキー連盟をはじめとする関係団体と意見を交換させていただきながら、検討していきたいと思っています。

また、整備に当たりましては、市としての政策的な判断になりますので、上司と相談をしながら検討してまいりたいと思います。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 次に、学校教育課長にお尋ねいたします。

本市の特徴は、よくも悪くも雪国であることだと思います。その冬の季節に楽しみをつくり出すことは非常に大切なことで、公共複合施設もそこが出発点になっております。その意味では、スキーは大人でも子供でも遊び心を引き出してくれる貴重なスポーツだと感じております。スキー授業の意味は、そこにもあると思っていますのですが、学校教育におけるスキー授業の意味について、学校教育課長はどのようにお考えでしょうか。

○平 進介委員長 目黒孝博学校教育課長。

○目黒孝博学校教育課長 それでは、お答えいたします。

学校でのスキー授業の取扱いについては、学習指導要領解説体育編、指導計画の作成と内容の取扱いに記載がされております。雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動などの取扱いについてということで、自然との関わりの

深い活動については、学校や地域の実情に応じて積極的に行うことに留意することとされております。

長井市は雪国ですので、子供たちにはぜひ、その雪を前向きに捉えて、自然に親しみながら生活できるようになってほしいと考えております。スキーは、生涯にわたって運動に親しむ習慣づくりにもつながります。また、冬場の運動量の確保にもつながります。

こういった点から、学校でスキー授業を実施することの意義は大きいと考えております。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 分かりました。最後に、3番目の質問に移ります。

長井の歴史の継承に関し、2つの事業についてお尋ねいたします。

最初に、10款4項5目、010長井市史編纂事業1,213万491円について、この長井市史は大変貴重な資料で、歴史は故郷に対する関心と誇りを醸成してくれるものと思っております。

ところで、少し気になる結果がありました。今年初めに市内高校の1年生全員にお願いしたアンケートで、出身地のどんなところが好きですか、または誇りに感じますかという質問に対し、一番回答が多かったのが自然の豊かさでした。伝統行事や催物も多かったのですが、反面、歴史を選んだ生徒がとても少ない。考えたのですが、そもそも地元の歴史を知らないのではないかと。

そこで、学校教育課長にお尋ねいたしますが、子供たちに地元史を知ってもらうことにどのような手だてを取っておられるか、事例がありましたらご紹介ください。

○平 進介委員長 目黒孝博学校教育課長。

○目黒孝博学校教育課長 それでは、お答えいたします。

長井市の歴史を学校で学ぶ機会としては、小学校の生活科、3年生、4年生の社会科、小中

学校で行われている総合的な学習の時間が上げられます。

小学校の生活科では、地域と生活、季節の変化の学習の中で、自分たちの住んでいる地域を探検し、地域に残る文化的な建物やまち並みを見学したり、地域に残る伝統行事について、地域の方の話を聞いたり、体験したりする学習を行っております。

3年生、4年生の社会科では、長井市教育委員会で作成している副読本、「わたしたちのふるさと」というのがありますが、これを使って、郷土の伝統文化と先人たち、それから、特色ある地域と人々の暮らしについて学習しております。中では、長井市が最上川舟運で栄えたこと、田んぼに水を引くために様々な先人の努力があったことなど、地域の発展に力を尽くした方々のことを学習しております。

また、小桜館、丸大扇屋など歴史的建造物を取り上げて、その背景にある歴史や文化についても学んでおります。

小中学校で行われている総合的な学習の時間では、各学校で地域を学ぶ学習が進められています。小学校では、長井市のよさを身近なひと、もの、こととの関わりを通して学習する活動が進められています。地域の魅力をたくさんの人に伝えたいということで、お勧めマップのようなものにまとめて、観光に訪れた人にも見ていただきたいということで、観光交流センター道の駅川のみなと長井に置いていただくなどという活動に発展させている児童もおりました。

中学校でも同様の活動、進められていますが、市内各地を自転車で回って、地域の歴史や文化に触れたり、地域の方に話を聞いたりするような活動を行っているところです。

○平 進介委員長 ここで暫時休憩いたします。

再開は午後3時20分といたします。

午後 2時59分 休憩

午後 3時20分 再開

○平 進介委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

それでは、勝見英一朗委員の決算総括質疑を続行いたします。

2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 ただいま学校教育課長から、教材等も準備しながら、地元史を勉強していただいているというお話をいただきました。ぜひ、これからも小学生、中学生、高校生のアンケート等を取りながら、意識調査もしていきたいと思うんですか、その中で生徒が変化していくことを期待したいと思います。

関連して、文化交流担当課長にお尋ねいたします。

地元史を知ってもらうことは、市民にも同じく、重要であると考えerわけですが、例えば長井市史の概略をまとめたダイジェスト版を作るなど、市史編さん以後の市民への浸透を図る施策について、お考えをお聞かせください。

○平 進介委員長 渋谷和志文化交流担当課長。

○渋谷和志文化交流担当課長 お答えいたします。

長井市史については、ご存じのとおり、今年6月1日に、各論第2巻ということで、水と文化編、仏教彫刻編の発売を開始しております。委員の皆様も既にお持ちの方もいらっしゃると思うんですが、A4判で大判のサイズになります。それで、黒獅子などの最新の写真を多く取り入れておりまして、お買い求めいただいた方から大変好評だということまでいただいております。

今年度は通史の第2巻、近世編というのを発刊することとしておりまして、現在、最終作業、編集作業を行っております。

来年度以降の予定としましては、令和4年度

には通史第3巻、近代編、令和5年度には通史第4巻、現代編を発刊する予定としております。

この通史第4巻、現代編をもちまして、新長井市史としての発刊は終了となります。勝見委員のご提案と同様に、長井市史編纂委員の皆様からも、ダイジェスト版を作ったらどうかという意見を頂戴しております。このダイジェスト版を作成する際には、ほかの自治体でも出しているものがございます、例えば写真で見る長井市史とか子供市史などの、子供から大人まで分かりやすく、読みやすいものを作成できたらいいかなと考えております。

まずもって、このダイジェスト版をきっかけにしまして、市民の皆様にはできれば全6巻ご購入いただきまして、地元史の探究学習、それと生涯学習、そういった部分に市民の皆様につなげていただければと考えております。

先ほど、勝見委員から高校生に取られたアンケートの事例についてご紹介いただきました。確かに子供たちを含めた市民の皆様の中には、地元史を知らないとか、あと中には興味がない方も多分おられると思います。できればそういった方にも手に取って見ていただけるような、表紙に印象があるとか、書店に置く場所を考えると、そういったダイジェスト版にできればいいかなと考えております。

今年度から、新たにふるさと納税の返礼品に加えていただくこととしておりまして、全国の興味ある方にも買っていただけるかなと思います。

なお、市史編さん以後においても、引き続きこの長井市史の販売とPRを行いながら、市民の皆様のみならず、多くの方々にやはり興味を持っていただくということが大事だと考えております。

また、地域づくり推進課と連携いたしまして、各コミュニティセンターを活用した市民向けの歴史講座とか、あと、そういった市史を使った

輪読会と言われるようなものを開催したりとか、あと、先ほど学校教育課長からもありましたとおり、小中学校の総合学習などに、長井市史編纂委員の皆様などから、出前講座などを行っていただくなどして、市民の皆様には地元史ということで浸透を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 大変楽しみなお話をいただきました。ぜひ、そのような形で断片の歴史ではなくて、1つのストーリーとして、長井市がどう出来上がったか、これを市民と共に理解できればと楽しみにしてまいりたいと思いません。

最後に、1点お尋ねいたします。7款1項2目、007伝統産業継承支援事業、20万円について、商工振興課長にお尋ねいたします。

今、申し上げましたように、地元への誇りを感じるのは伝統に関わるところで、伝統産業もその中に入るのだらうと思います。しかし、伝統産業は流行の波に乗ることもありませんので、押しなべて苦戦される場合が多いと感じます。その中での支援事業は貴重と思しますので、1点質問させていただきます。

この事業で、金井神箒とともに長井紬も上げておられますが、長井紬の振興策として考えておられることがありましたらお聞かせください。

○平 進介委員長 佐藤 久商工振興課長。

○佐藤 久商工振興課長 お答え申し上げます。

この伝統産業継承支援事業につきましては、平成29年度から、金井神箒と長井紬を併せまして、それぞれ新たな商品作りであるとか販路の開拓などを模索するというところで進めてきた事業でございます。

内容といたしましては、アメフラシという団体に事業を委託しまして、新たな発想でいろんな商品の試作であったり、検証作業を行っております。

長井紬に関しましては、衣装やクッション、あと日傘などに活用できないかということで検討しておりますし、洗濯をしてどのような変化があるかということも検証したところでございます。もちろん、こちらについては専門家の方も入れながらということで、検証事業を行いました。

しかしながら、新型コロナウイルスが感染拡大しまして、ちょっと今現在、動きのほうが進んでいる状況でございます。

ただ、このような新しい取組については、市としてもこれからも支援のほうを続けていきたいというように考えております。

また、長井紬、反物として本来の振興ということでは、近いところで申しますと、ふるさと納税のほうで、反物を返礼品ということで取り扱った時期もございます。ただ、返礼品にしますと、転売ができるという問題もありまして、現在は削除をしている状況でございます。

あと、消費者の観点からは、洋服にして売ったらどうだということも可能性としてありまして、過去に平成8年、平成9年あたりに県の補助事業を使いまして、一般社団法人置賜地域地場産業振興センターのほうで洋服の試作品も作って、東京都などでも展示会を行いました。ただ、需要がなかなかないということで、展示会を行ったんですが、その後は思うように進まなかったという状況でございます。

いずれにしても、伝統産業である長井紬をいかに存続させるかということを考えながら、でき得ることをしていきたいと思っておりますし、新たな活用の方法等も、今、検討しておりますので、コロナ禍明けになるかと思いますが、引き続き検討を重ねていきたいというように考えております。

あと、コロナ禍が明けましたら、いろんな生産者の方のお話をお聞きしながら進めていければなというように考えているところでござい

す。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 検討を進めていただくということで、ここはお願いしたいと思います。

長井紬あるいは呉服店を含めてなんですが、コロナ禍で販売会もできない、非常に厳しい状況であるということは、改めて感じました。その中で、この長井紬は伝統的工芸品に指定されていて、貴重なものだと思います。例えば道の駅川のみなと長井にインバウンドなり、市外から来られた方がまちの中を散策するとき、和服で歩くとか、あるいは長井市民が長井紬、1人1品キャンペーンとか、そんな形で応援できればと感じたところです。

また、経済産業省では伝統的工芸品産業支援補助金などもあって、今年度は94件が採択されております。それらも活用しながら、厳しい状況ではあるんですが、もちろん長井紬自体は構造的な問題などもあって、そう簡単に振興するとはいかないのかもしれないんですけども、これを何とか続けていくというために、いろんな方策を検討していただければと思ったところです。

ご答弁ありがとうございました。以上で質問を終わります。

### 鈴木富美子委員の総括質疑

○平 進介委員長 次に、順位4番、議席番号10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 清和長井の鈴木です。

令和2年度の決算総括質疑をさせていただきます。

初めに、6款農林水産業費、1項農業費、3目農業振興費、104新規就農・移住定住促進事業について、5つお聞きしますが、全て農林課

長にお願いいたします。

初めに、新規就農・移住定住促進事業は、農家の高齢化及び農業後継者の減少が進む中、新規農業者を市外から誘導し、移住定住へと結びつけるとしております。市外から誘導する手だてはどのようにしているのか、どのように募集しているのかお聞きいたします。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 お答えいたします。

農業従事者の高齢化や後継者不足により、耕作放棄地が増加しております。その担い手不足が大きな課題でございまして、新たな担い手としまして、新規就農者への期待が高まっております。国の政策の後押しもございしますが、本市では地域農業を支える大切な担い手として、新規就農を目指す方々を積極的に支援するために、平成28年度に新規就農者に対する移住支援、生活支援、農地等の賃借料支援、機械施設整備支援、家賃支援などの本市独自の支援制度を創設いたしまして、その財源に充てるため、1,000万円の長井市新規就農及び移住定住促進基金を設置したところでございました。

支援制度といたしましては、当時、県内で最も充実し、現在におきましても、他自治体に見劣りしない制度であると考えているところでございます。

しかしながら、移住新規就農者の確保が大きく進まないのは、移住定住の促進が全国的な流れにあり、本市の知名度不足や魅力の情報発信力不足、支援が新規就農希望者のニーズに応え切れてないという課題がある、このように考えているところでございます。

一昨年暮れから蔓延する新型コロナウイルス感染症の影響で、新たに農業で活路を見いだそうと検討する方が増えていると言われております。

委員ご質問の趣旨のとおり、今後も地方創生に係る移住新規就農者の確保と支援は重要な施